

遺跡の紹介

須恵器と初期瓦を焼いた 茶臼山東窯跡群

茶臼山の東側斜面裾野に5基の窯跡が検出された。茶臼山東1～3号・5号窯跡は史跡船迫窯跡で最も古い6世紀後半の須恵器を焼いた全長10m前後の穴窯で、窯下方の破損品などの捨て場から朝鮮半島の影響を受けた製品も出土した。

茶臼山の東側斜面中央部の茶臼山東4号窯跡は、構造は他の窯と同じだが、7世紀中頃に須恵器と瓦の両方を焼いた。

豊前国分寺の補修瓦を焼いた 宇土窯跡

昭和14年(1939)に築上史談会(代表 岡 為造)が一部を発掘した。平成6年(1994)に圃場整備事業に先立ち発掘調査が行われ1基が確認された。宇土窯跡は全長5.5m、最大幅1.4mのやや小型の窯で、9世紀前半に豊前国分寺の補修瓦を焼いた。発掘調査後に圃場整備のため、消滅した。

古代寺院の瓦を焼いた 堂がえり1号・2号窯跡

堂がえり1号・2号窯跡は、堂がえり遺跡南側山林の尾根近くにある。窯の耐久性を重視し、地盤の良い場所を選んで操業した。

1号窯跡は全長8mのトンネル状の穴窯である。2号窯跡は1号窯跡のすぐ上にあり、全長10m、幅1.0～1.4m、天井高は2mもあり、床面は12段の階段状になる。2号窯跡は7世紀後半に上坂廃寺(みやこ町)の瓦を焼いた後、8世紀中頃に豊前国分寺の瓦を焼いた。



堂がえり2号窯跡

瓦製作工房 堂がえり遺跡

堂がえり遺跡は、史跡船迫窯跡の中央部の平地にあり、8世紀中頃の巨大な掘立柱建物2棟を中心として豊前国分寺の瓦を製作した。1棟の規模は10間×4間(長さ30m、幅12m)と巨大だが、柱穴は直径12cm前後と小さく、短い期間に大量の瓦を製作し、乾燥するための仮設的な建物と思われる。北側の建物の一部は高床構造となっていて、瓦を製作した場所と考えられる。

窯業関係者の墓 堂がえり古墳群

堂がえり古墳群は、昭和50年(1975)に船迫史跡調査保存会の現地踏査で存在が明らかになり、昭和52年、築上西高等学校社会部により円墳2基からなる群集墳であることが報告された。『紡錘車第4号』

平成14年(2002)に町教育委員会による発掘調査が行われた。直径10m前後のドーム形の円墳2基が新たに検出され、合計4基となった。

遺体が埋葬されたのは横穴式石室で、いずれも南側に向けて開口し、7世紀中頃～後半に埋葬されたと考えられる。どの古墳も後世の盗掘に遭うが、4号墳から金銅製耳環(イアリング)や須恵器の完形品の器が出土した。



茶臼山東窯跡群



宇土窯跡

須恵器窯を再利用した瓦窯 堂がえり3号・4号窯跡

堂がえり遺跡南側山林の裾野に2基の窯跡が並んで発見された。堂がえり3号・4号窯跡は6世紀末～7世紀初めに須恵器を焼いた後、7世紀後半に窯跡を再利用して瓦を焼いた。その際、床面に並べた瓦がずり落ちないように洗濯板のような浅い溝を削り出した。これは堂がえり2号窯跡のような階段式窯の前段階で、瓦窯の形態変遷がわかり大変貴重である。



堂がえり4号窯跡



堂がえり遺跡(左からため池、2号掘立柱建物跡、1号掘立柱建物跡)



堂がえり古墳群(写真は1号墳)

お問い合わせ

築上町教育委員会

生涯学習課文化財保護係
(船迫窯跡公園体験学習館)

〒829-0106

福岡県築上郡築上町大字船迫1342番地22

TEL・FAX 0930-52-3771

E-mail kamaato@lep.bbq.jp

築上町歴史散歩
ホームページ



<https://www.chikujo-rekishi.jp/>

令和6年(2024)3月発行

国史跡船迫窯跡保存活用計画 概要版

— 古代焼き物の里を地域の魅力として発信し、将来に継承する —



史跡地 鳥瞰図(令和5年3月制作)



しび

しゅうたい くだらけいたんべんしやうれんげもん
(縦帯に百済系単弁四葉蓮華文)



だざいふしきおにがわら
大宰府式鬼瓦

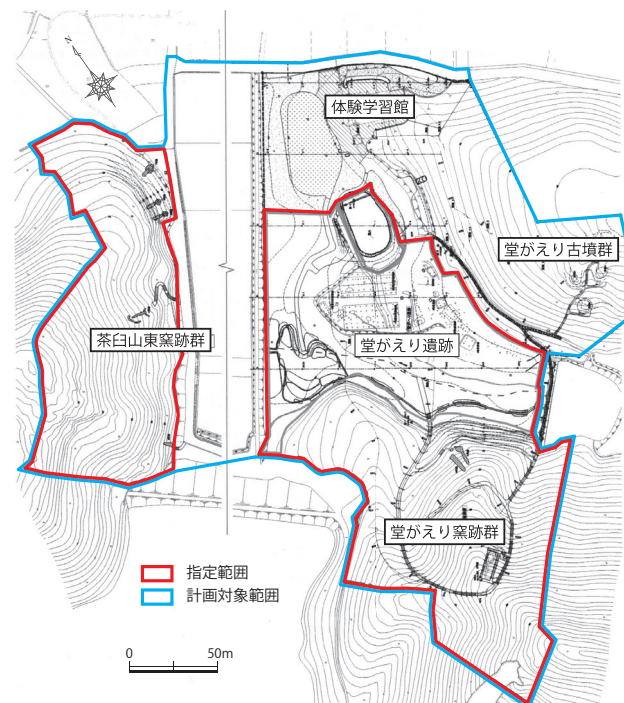
史跡船迫窯跡の概要と計画の目的

史跡船迫窯跡は福岡県築上郡築上町大字船迫に所在する茶臼山東窯跡群、堂がえり窯跡群、堂がえり遺跡(工房跡)、宇土窯跡の4か所の古代窯業遺跡の総称です。6世紀後半の須恵器、7世紀中頃から後半の須恵器と瓦、8世紀後半の国分寺瓦を焼いた窯跡など、須恵器生産から瓦生産までの変遷がたどられ、北部九州の窯業の歴史を知ることができます。また、長さ30m×幅12mの大型工房跡が2棟検出され、豊前国分寺の瓦を作ったところと考えられます。このように窯跡と工房跡が同じ場所で検出されたのは、平城宮の瓦を生産した市坂瓦窯跡(上人ヶ平遺跡:京都府木津川市)に次いで全国2例目の発見であり、その重要性から平成11年1月28日に国指定史跡となりました。

本計画は、史跡船迫窯跡全体の保存状態を把握し、将来における保存の方向性と方法、また活用のための方針を示す事を目的とします。



史跡地全景(北東上空より 令和5年10月18日撮影)
堂がえり遺跡中央に大型工房(復元)が建つ。



計画の対象範囲

史跡船迫窯跡の価値

- 1 豊前国分寺瓦を製作した大型工房跡と窯跡が一体となって残る全国的に数少ない事例
- 2 須恵器生産から瓦生産までの変遷がたどれ、北部九州の窯業史を知る上で貴重
- 3 大陸に近く、瀬戸内海を介した交通の要衝地で開花した渡来文化
- 4 窯跡周辺の低湿地に形成された豊かな粘土層と燃料（薪）を調達した豊かな森林、そして窯操業に適した地質



大型工房での瓦製作の様子（想像図）



茶白山東窯跡群（想像図）

基本理念

古代焼き物の里を地域の魅力として発信し、将来に継承する。

- 九州で唯一、工房跡と窯跡が共に残る古代焼き物の里の魅力を公開する。
- 九州屈指の鷗尾^{しゅうび}を焼成^{しょうせい}した窯跡の特徴を活かす。
- 須恵器から瓦まで窯業の歴史がわかる。

現在まで守られてきた窯跡を周辺環境との調和を図りながら、適切に保存活用する。
その価値と魅力を町民と共有し、「地域の誇り」として情報発信するとともに、後世に継承する。
須恵器生産から瓦生産までの窯業史を学び、その魅力を発信する。

基本方針

- | | |
|---|--|
| ■ 保存管理
本質的価値の共有と先人達の想いを継承 | ■ 整備
多面的な活用に対応し、持続可能な保存管理に結び付く整備 |
| ■ 活用
学校教育や社会教育と連携した地域主体の
活用促進と観光振興 | ■ 運営・体制
持続可能な保存活用体制の構築と未来への確実な継承 |

保存管理の方向性

史跡の価値を損なうことなく確実に保存し、継承していくことがこの計画の重要な目的です。現状では、史跡指定地はすべて町の公有地であり、町が定期観察に基づき現状把握を行い、その状況に応じて行う日常管理和、本質的価値を維持・向上させるための保存管理を図ります。

- 1 現状の地形と景観を維持
- 2 地下に保存される遺構の保守管理
- 3 地上に露出する遺構の経過観察と定期的な保守管理
- 4 水生植物の管理



秋の田園に溶け込む史跡船迫窯跡



湿地のようす

活用の方向性

地域の人々が史跡船迫窯跡を「地域の誇り」と思えるよう、その魅力を積極的に発信し、あわせて周辺の古墳群や、豊前国分寺、築城郡衙や古代官道など周辺地域の歴史文化遺産等と連携した活用を目指します。

- 1 学校教育における活用
わかりやすい教材づくりや体験活動の充実を図ります。
- 2 社会教育における活用
陶芸を通した世代間交流を推進します。
- 3 地域における活用
地域の行事と情報を共有し発信します。
- 4 観光資源としての活用
関連史跡と連携した観光施策を行い、情報を発信します。



町内小学生の校外学習



火起こし体験



窯跡コンサート



勾玉づくり体験

整備の方向性

遺構にとって望ましい保存状態を維持しながら、その情報を最大限にわかりやすく伝えることで、地域社会の発展に効果をもたらすような公開・活用の場を提供する整備に取り組めます。

- 1 史跡を保存するための整備
地中に現存する遺構の確実な保存を図ります。
- 2 史跡の価値を伝えるための整備
史跡の価値をわかりやすく伝えるための整備を行います。
- 3 便益施設の整備
周辺環境に調和した安全で快適に過ごせる整備を行います。
- 4 史跡にふさわしい景観整備
山の斜面にある窯跡群や古墳群を平地部分から遠目に感じる事ができ、見学者が直近で見たいと思う整備を行います。
- 5 周辺関連資源を一体的に活用する整備
ストーリーに基づく広域の史跡散策コースを設定し、人々の歴史理解や回遊を促します。



遊歩道整備イメージ（堂がえり遺跡）



石ベンチ（吉武高木遺跡）



脱色アスファルト舗装（福岡城跡）

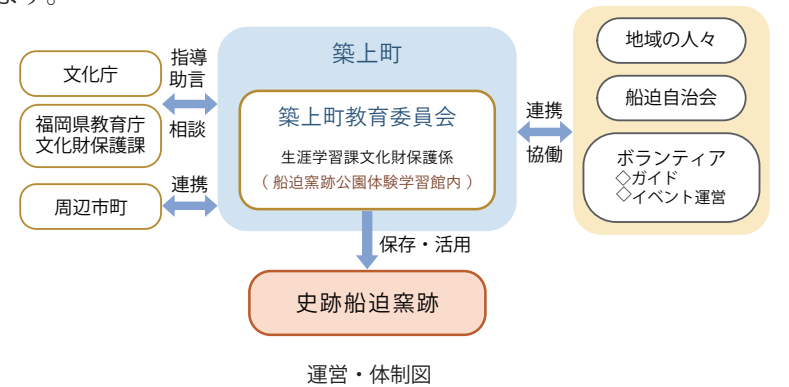


豊前国分寺の三重塔

運営・体制の方向性

史跡船迫窯跡は開園以来、除草等の日常管理を行いながら、遺跡公園を活用した様々なイベントを開催してきました。拠点施設である体験学習館は埋蔵文化財センター機能も担っており、現状では職員が埋蔵文化財保護業務と史跡の運営業務を兼務しています。将来的にはガイドボランティアやイベント運営を手伝うボランティア、そして地域の人々や研究機関等との連携による運営体制の構築をすすめていきます。

- 1 地域との連携・協働による管理運営
- 2 関係機関との連携体制
- 3 行政内部における体制強化
- 4 研究機関等との連携



運営・体制図